

はじめに

うたごえ運動は2008年、創立60周年を迎える。

「うたごえは平和の力」「うたはたたかいととも」「うたごえは生きる力」を合言葉に活動してきたが、憲法九条を変えて戦争できる国への策動が一層激しさをましている今、憲法をまもる正念場の年に一層活発にしていくことが求められている。あらためてうたごえ運動の理念と平和憲法九条について考えたい。

「平和で健康なうたを全国民に普及する」を目的にしている日本のうたごえ運動は、国民主権、恒久平和、基本的人権の尊重を原則とする憲法を輝かせ活動してきた。憲法二十五条は「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とある。しかし、九条を変え、日本が戦争する国になれば、軍事費の増大、そのための増税、福祉切り捨て、教育・文化の統制など戦前の歴史で明らかなように、この条項も保障されない。

そういう国にしないために、そして、いのちが輝く社会をめざして、私たちは「うたごえは平和の力」と活動し、「人々の生活と闘いを創造の源泉」として歌を創り、広げている。

2006年は、憲法をまもり平和に貢献する日本が、アメリカに従って「戦争への道」が、この国の進路と国民生活の将来、そして世界の平和構築をめぐり、歴史的な節目の年となる。

うたごえ運動の理念と九条についてあらためて深め、九条をまもる運動を軸に、憲法を輝かせ、国民自身が主人公となる音楽文化の豊かな発展をめざす新たな決意を持って運動を進めていきたい。

今総会では、音楽の輝きで感動の輪を広げ、心を結ぶ文化（うたごえ）で人々を励まし勇気づけてきた活動に確信を持ち、一人から一人へ、さらにサークルで、地域、職場へと全国津々浦々に広げる06年方針、うたごえ創立60周年に向かう3カ年計画を決めたい。

私たちをとりまく情勢

被爆・戦後60年の大きな節目であったこの1年。被爆者や、戦争体験者が、その悲惨な事実を若者たちに語り、その思いを受け継ぎ、核兵器も戦争もない世界をめざす行動に多くの若者たちが日本でも世界でも立ち上がってきている。日本の良心ともいえる九人のよびかけでつくられた「九条の会」は全国の地域、分野、職場、学園に広がり、その数は4000を越えた。「音楽・九条の会」も立ち上げられ、専門家から音楽愛好家まで1月現在2000人を超える賛同を集めている。「すみやかな核兵器の廃絶のために」の新たな署名が呼びかけられ広島、長崎両市長をはじめ内外の著名な人々が賛同の声を寄せている。米軍基地の再編強化に対し、自治体ぐるみで反対に立ち上がっている。いくつかの世

論調査によると、憲法九条を変えない方が良いという意見は過半数を超え、特に20代では60～70%を占めている。

うたごえ運動は、多くの人々との共同のとりくみを大切にしながら、全国でうたを生みだし歌い広め、11月には被爆地広島で開催した日本のうたごえ祭典inひろしま2005（以下、ひろしま祭典）で、“平和の力”、“生きる力”のうたごえを世界に向けて発信した。そのフィナーレ、地元の中学生らとともに歌った「ねがい」の大合唱シーンはNHK TVの番組でも報道され、大きな反響を呼んでいる。

今、日本は、アメリカの「力による世界戦略」に組みし、アメリカとの強い同盟関係が日本の将来にとっても最重要と考える財界と小泉内閣によって、「戦力の不保持」と「交戦権の否認」を掲げる憲法九条を改変することを中心に据え、「戦争できる国づくり」へ突き進んでいる。戦争をする国には、そのためのハード（軍事力）、システム（法）、ソフト（人心）が必要とされるが、ハード面では自衛隊がアメリカに次ぐ戦力を保持するにいたり、システム面での法改正は「有事関連法」が次々と成立、残すは九条改変というところまで来ている。そして、ソフト面での「戦争できる人づくり」を大量のメディアを動員し、教育基本法を「改訂」するなどして推し進めようとしている。

さらに小泉内閣は、在日米軍基地を再編強化し、基地の被害や米軍人による犯罪が多発していても、税金を投入してまで手を貸し、一方、「構造改革」の名のもとで、無駄な大規模開発や大企業減税には手をつけずに、消費税など暮らしを切り裂く増税が企てられ、医療・年金の改悪が追い討ちをかけている。JR福知山線の脱線事故や、アスベストの放置、耐震強度偽装事件などは、もうけ優先の政治や大企業の姿勢がどんな結果をもたらすかを示した。人件費削減による不安定な雇用が特に青年の中で進行し、社会的な格差がひろがり、「勝ち組・負け組」がお金を基準に計られ、子どもの世界にまで「マネーゲーム」が入り込んでいる。これらの社会的ゆがみのもとで幼い子どもの命を狙うなど、“いらだち”や不満の矛先が弱いものに向けられている。

国の内外からどんな批判を浴びようとも靖国参拝をやめない小泉首相を「かっこいい」ともちあげ、青年割引料金も設定した映画で、あの戦争を「国と家族を守るためのやむを得ないもの」と語らせる。文化予算が少ない中でも「美しい日本のうた」と「活躍」する自衛隊音楽隊など郷土芸能や祭りでの彼等の進出ぶりも著しい。

こうした社会の動きの中で、社会の真実と今を生きる切実な思いを映し出し、人々のところに連帯と勇気を引き起こす文化や音楽、うたごえの役割はいっそう大きくなっている。

日本の進む方向は世界に大きな影響を持っている。平和を願い、いのちを慈しむ多くの人々の中にわたしたちの「輝け憲法九条！ いのち・暮らしをまもれ」のうたごえを届け、共に手を結び行動することを呼びかけよう。平和なアジアと世界を未来に手渡すためにさらに広く大きくしていく必要がある。